



令和7年度 東京都立小金井特別支援学校 学校経営計画（小金井スクールプラン2025 最終報告） ～創立50年、新たなステージへ～

I 目指す学校

児童・生徒の人権を大切にし、自己理解、自己決定、自己実現の教育を推進し、保護者の期待に応え、地域の中での役割を果たすため、教職員が一丸となり誠実に謙虚に努力を継続していく学校

プラン1【学習指導の充実】◆学習指導

② 重点目標と方策

※◎：目標100%達成 ○：70～90%程度達成 △：40～60%程度達成 ×：30%以下達成

【3月は◎・○・△・×も記入】

方 策	担当者→ 対象教員等	目 標	10月中間進ちょく	3月結果
1 人権教育研修会を実施（いじめや体罰の問題を行い、児童虐待問題を重点的に行う）する。	副校長、4級職（担当主幹）→全教員	年間3回実施 いじめ課題について外部講師による研修1回実施。	4月に教員研修を2回、6月のふれあい月間に教職員アンケート、8月に斎藤宇開氏を講師に研修会を実施した。	◎4月に2回の人権研修、8月・11月に齊藤宇開氏を講師に研修会を実施した。
2 体罰、不適切な指導、不適切な言動及び性暴力等の服務事故「0」とする。	全教職員	体罰、性暴力等の服務事故「0」	10月1日現在、これらの服務事故は「0」である。	◎年間をとおして、体罰、不適切な指導、不適切な言動及び性暴力等の服務事故「0」である。引き続き、児童・生徒の呼び方や接し方など、適切な対応を行っていく。
3 教室等学習環境（学びの場）を整備し、個に応じた教育環境（環境の構造化等）を充実させるとともに、児童・生徒が主体的に学習環境を整備できる力を育成する。	主幹教諭（教務）、教務部→学年・担任	学期1回以上、各学級の環境整備の状況を把握し、改善する。	一学期に教室配置図を各学年担任に記載を依頼し、作成することでそれぞれの工夫を知り合い、改善する機会ができた。	○1学期に教室配置図を作成、2学期に配置図に動線とスケジュールの場所などを追記し、児童・生徒が活動しやすいかを客観的に確認した。児童・生徒が主体的に活動できる学習環境づくりの理解が深まった。

4 小学部及び中学部で姿勢や呼吸法などの授業を実施し、心と体を整える取組みを推進する。(ヨガ)	教科会(体育)→小学部、中学部→担当学年	外部の専門家による教員研修を1回実施。2学期以降、体育や保健体育で年2回以上授業を実施(外部の専門家)。	8月に外部専門家による研修を実施し、多くの教員が参加した。12月に小学部は体育で中学部では保健体育でヨガの取組みの計画をたてている。	◎教員研修及び中学部2年・3年、小学部5年生の児童・生徒が外部専門家から直接指導を受ける機会をもった。ヨガの取組みをとおして自分の心や体を見つめる経験をすることができた。
5 小学部が実施する「インクルーシブな学び」プログラム事業で多様な学び経験し、児童のインクルーシブな感覚を養う。	小学部担当主幹→小2～小6担任	小2～小6まで合計6回、各教科の授業で実施する。	予定どおり6回実施できた。	◎今年度初めての活動であったが、計画どおりに実施することができた。来年度は小1も含め、各学年が参加できるよう計画していく。
6 外部の専門家を活用し、図書室を充実させるとともに、読書活動を充実する。	教科会(図書)、担当主幹(外部の専門家)	各学年で積極的な図書室の活用及び全校で図書のポップの作成。	外部の専門家を活用し、7月から8月にかけて図書室の整備をしていただき、蔵書についても助言を受け整備を行った。9月より開室し、読書活動の推進に向けた「読書の木」活動の準備を行っている。	○2ヶ月に1回程度外部の専門家による助言等を受け、図書室の環境整備を行い、月10冊程度であった貸し出し数が月30冊程度に増えた。「読書の木」活動を開始し、読書活動を推進する土台作りを行うことができた。
7 個別指導計画等を基本にPDCA(計画-実施-評価-改善)サイクルを確立する。	教務部→各学年、担任	保護者アンケート肯定率90%以上	個別指導計画や日頃の児童・生徒の様子について保護者と5月、10月に面談を行い確認し、必要に応じて計画の修正をしながら指導に取り組んでいる。	◎10月に行った学校評価アンケートの個別指導計画及び学校生活支援シートが保護者の要望を聞き入れ、分かりやすい計画になっているかの項目で「十分に良い」「ほぼ良い」の回答が97%だった。学校の取組などを保護者と共有できた。
8 全教員が1回以上の公開研究授業を実施し、授業改善を推進する。(学習指導要領を踏まえた授業改善)	研究研修部→全教員	公開研究授業120回以上	9月末までに年次研究授業、校内研代表授業、一人一研究授業合わせて、全58回の研究授業が行われた。	◎年次研究授業、校内研代表授業、一人一研究授業合わせて、年間で全127回、研究授業を実施した。

9 外部専門員等を活用した太田ステージ（各担任）、SM社会能力検査、S-S法等を実施し、児童・生徒の実態を明確化し指導に生かす。	研究研修部 →全教員	太田ステージは全児童・生徒、SM社会能力検査は中1全生徒、S-S法は50ケース実施。	太田ステージは前年度に実施していない新転入生全員の評価を実施。S-M社会生活能力検査は中1全生徒が実施済み。	○1学期末に中1全生徒のS-M社会生活能力検査、1月から2月にかけて、在校生全員の太田ステージアセスメントを実施した。外部専門員によるS-S法アセスメントは、年間で25ケース実施した。
10 初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修対象者は研究授業を実施し、授業改善を行い授業力の向上を目指す。	研究研修部、初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修	公開研究授業年3回	左記対象者全員が年間3回の研究授業を設定し、計画どおり実施できている。	○初任者、2年次、3年次、中堅教諭等資質向上研修Ⅰの対象者、全21名が年間3回ずつ、計63回の公開研究授業を行った。
11 知的障害者用教科書（☆本）を活用し、教科（国語、算数・数学、音楽、生活）指導の充実を図る。	研究研修部 →教科担当	年間研究授業を合計16回実施し、教科毎で研究協議会を実施する。	4分科会において、1学期に代表授業、改善協議会、改善授業、まとめの協議会のセット（研究授業2回ずつ）を行った。2学期も同様に行っていく予定。	◎「国語」「算数・数学」「音楽」「生活」の4分科会において、2人の代表授業者が☆本を活用した授業及び改善授業（計16回）を行うとともに、各分科会で☆本活用リストを作成することで、全教員が☆本及び教科書解説を読み、授業改善につながった。
12 GIGAスクール端末を児童・生徒の実態に応じて、積極的に活用し、主体的に情報を理解するとともに、児童・生徒の資質・能力を向上させる。	情報教育部 →全教員	情報教育の研修を6回以上実施する。各教員は年間5回以上授業で活用。	夏季休業中に7回のICTワークショップを実施。5校連携プロジェクトにより、他校からも少人数の参加があった。	◎GIGA端末の活用につながるICTワークショップは夏季休業中に7回実施した。方策8における研究授業のうち、50以上でICTを活用していた。
13 音楽、図工・美術をとおして、児童・生徒の創造力や表現力を養うことができる芸術教育を充実する。	全学部	創立50周年の取組みで芸術教育「みんなのコンサート」を実施。	みんなのコンサートについて1月30日に実施すること、それに向けて12月に歌唱指導を行うことを計画している。	◎創立50周年記念として、小学部低学年、高学年、中学年の発達年齢に分けて歌唱指導、みんなのコンサートを実施した。

【まとめ】

- ・人権研修や外部講師研修を計画どおり実施し、服務事故ゼロを達成するなど安全・安心な学校づくりを徹底した。
- ・教室環境の改善や図書室の再整備により、貸し出し冊数が3倍に増加するなど学習環境が大きく向上した。
- ・年間127回の研究授業と☆本を活用した授業改善を通して、全教員の授業力向上が着実に進んだ。

- ・アセスメントや外部専門家による指導により、児童・生徒の特性理解と個別支援の質が高まった。
- ・創立 50 周年記念行事をはじめ、発達段階に応じた教育活動を充実させ、児童・生徒の主体的な成長を支えることができた。

プラン2【生活指導（児童・生徒指導等）、安全教育の充実】 ◆生活指導

② 重点目標と方策

方 策	担当者→ 対象教員等	目 標	10 月状況	3 月結果
1 学校生活等で指導上 対応が難しい児童・生徒 (特に自閉スペクトラム 症等発達障害) に対して、 迅速に校内支援委員会を 実施し、必要に応じて、 外部専門委員やスクール カウンセラーを活用しな がら課題解決を図る。	教育支援 部・特別支 援教育コー ディネーター 及び生活 指導部(外 部専門員、 スクールカ ウンセラー)	校内支援委員会 を年 10 回開催す る。また、外部支 援員及びスクー ルカウンセラー と連携した対応。 年 20 回以上実 施。	校内支援委員会は、10 月 末で 6 回実施した。6 月 よりスクールカウンセラ ーが同席し、情報共有を 行っている。また、今後 外部機関との支援会議に スクールカウンセラーが 同席予定である。	○校内支援委員会は年に 12 回実施。委員会の決定 を経て、子ども家庭支援 センター等の関係機関に 繋ぐことのできたケース もあった。外部との関係 者会議は年間 22 回実施。 内スクールカウンセラー 同席は 1 回であった。
2 児童・生徒が集団を 意識し、規律正しく行動 及び活動できる教育を推 進する。(集団行動に関す る指導)	4 級職、教 科会(体育) →学部、学 年、担任	4 月及び 5 月で 日常生活の指導、 体育等の授業で 集団行動の指導 を実施。5 月・10 月の運動会や他 の学習で、児童・ 生徒の主体的な 集団行動の実施	集団行動については、朝 の体育で実践し、5 月・ 10 月の運動会では学年単 位で移動等活動ができた。 また日々の教室移動 でも同様に、廊下で集ま って移動することに取り 組んでいる。	◎年度当初から日々指導 し、5 月の運動会、各学 年の校外行事、学習発表 会での移動など学年や学 級を意識して集団で行動 することができた。
3 防災教育推進委員会 を活用して、地域と連携 した防災等危機管理体制 を構築する。	主幹教諭、 生活指導部 →学部、学 年、担任	7 月までに B C P 等防災マニ ュアルを見直し 7 月全校に周知	7 月に防災教育推進委員 会を開催し、本校の防災 体制、避難訓練などにつ いて助言をいただき対応 をしている。BCPにつ いては完成し、その他の マニュアルについても完 成もしくは改善中である。	◎防災教育推進委員から の助言や実施した訓練の 反省を反映した各種マニ ュアルの改善を図ること ができた。マニュアルに ついては随時改善を図る ことが必要である。訓練 などをとおした PDCA による改善を継続する。
4 B C P (事業継続計 画) など危機管理計画等 緊急時マニュアルを更新 し、小金井市と連携した 福祉避難所、帰宅困難者 等の受け入れを想定した	生活指導部 →中 1 教員 及び全教職 員	7 月までに B C P の作成(生活指 導部)。7 月宿泊 防災訓練で活用 する。	B C P については完成 し、その他のマニュアル についても完成もしくは 改善中である。7 月に小 金井市福祉避難所担当部 署を講師に招き、教員対	◎BCP など本校の危機 管理計画の核となる部分 について作成・更新を行 った。小金井市担当部署 とも連絡を取り、災害対 応物資などの確認なども

訓練を行う。			象の福祉避難所設営に関する研修を実施した。災害対応のスターターマニュアルの素案が完成している。	丁寧に行うことができた。福祉避難所の運営などについては、小金井市の対応が決まり次第、連携をとって対応する。
5 宿泊防災訓練時に地域と連携した総合防災研修会を開催する。	生活指導部 →2年担任	宿泊防災訓練7 月実施	7月に小金井市福祉避難所担当部署を講師に招き、教員対象の福祉避難所設営に関する研修を実施した。また、防災教育推進委員会を宿泊防災訓練実施日に開催し、所轄の警察署、消防署、小金井市役所、PTA会長、近隣住民代表から御意見、御助言をいただいた。	◎小金井市担当部署、小金井消防署、本校防災教育推進委員会など地域と連携し総合防災訓練、研修などを行うことができた。来年度は宿泊を伴わない「防災の日」として、充実した内容の訓練等が行うことができるように準備を進める。
6 学校施設、教育環境、準備室等の点検・改善を行う。	教務部、生活指導部、各学習部会 →経営企画室→全教職員	教務部、生活指導部で月に1回以上安全点検。学校施設や教室環境の課題の整理。	月初に各教室の火元責任者が安全点検を行い、必要な対応を図っている。また、教務主任や生活指導主任が、教室や校内設備について確認し、補修や必要物品の購入について経営企画室と協力して対応している。	◎火元責任者による安全点検は適切に行えているが、点検方法や点検内容については改善が必要である。校内教育環境については、設備の経年劣化もあり対応が必要な事象が増えているが、経営企画室と連携し迅速に対応することができた。引き続き、環境に関する課題を整理し対応を図っていく。

【まとめ】

- ・校内支援委員会12回、関係機関連携22回を行い、複数のケースで適切に外部支援へつなぐことができた。
- ・運動会や校外学習、発表会等をとおして、全校で集団行動の質が大きく向上し、安定した学校生活を実現できた。
- ・防災教育では助言と訓練を踏まえ、各種マニュアルを改善し、継続的なPDCAが機能した。
- ・BCPの作成・更新や市部署との連携により、危機管理の基盤整備が着実に進展した。
- ・消防署や市担当部署と連携した総合防災訓練の実施により、地域と協働した防災体制が一層強化された。

プラン3【キャリア教育の推進】 ◆進路指導・生活指導・学習指導

② 重点目標と方策

方 策	担当者→ 対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 日常生活の指導や児童・生徒指導をとおして、	4級職、各 学部→各学	年間をとおして、 計画的に推進し、	小学部及び中学部の学部 会において、「日常生活の	◎朝の挨拶では、児童・ 生徒が自ら進んで挨拶し

「基本的な生活習慣（身辺自立）」「社会性（挨拶、返事、態度、マナー等）」に関する指導し、児童・生徒が自ら考え活動できるようにする。	年、各担任	全児童・生徒の80%が、挨拶等ができるようにする。	指導」における「着脱指導」のポイントについて、指導教諭が講義を行った。	たり、返事や視線を合わせたり、教師の挨拶に合わせて一礼したりする姿が多く見られ、挨拶の定着が図られた。
2 中学部の作業学習の指導内容、指導体制を整備し、授業改善を行う。	中学部担当主幹、中学部→作業学習担当	7月までに作業学習の環境を整備し、10月までに公開研究授業を行う。	各作業班に環境整備について助言した。紙工班、木工班の担当教諭が研究授業を行った。環境、教材、指導体制について助言し授業を改善した。	○陶芸班担当教諭が研究授業を行った。環境・教材・指導体制を改善した。各作業班で2グループに分かれて作業したことで、生徒は工程を理解し落ち着いて作業に取り組む姿が見られた。
3 インターンシップをとって、社会（福祉事業所等）で働くことを知り、社会生活に必要な知識や技能・態度を育てる。	進路指導部→小学部・中学部担当及び担任（小5～中3）	インターンシップを1年間で小学部2回、中学部4回実施する。	小6：インターンシップを実施した。 小5、中1～3年：児童・生徒は事前・事後学習をとって社会生活に必要な知識を学び、態度を意識することができた。	◎小5～中3年の各学年で計画どおりインターンシップを実施し社会生活に必要な知識・技能・態度を育成することができた。児童・生徒は主体的に活動に取り組む姿が見られた。

【まとめ】

- ・朝の挨拶では自発的な挨拶や一礼が定着し、良好な人間関係づくりの基盤が大きく向上した。
- ・陶芸班では研究授業をとって環境・教材・指導体制を改善し、落ち着いて工程を理解しながら作業する姿が顕著に見られた。
- ・各作業班を2グループに分けたことで、個々の生徒に応じた丁寧な支援が可能となり、学習の質が向上した。
- ・小5～中3でインターンシップを計画どおり実施し、社会生活に必要な知識・技能・態度を育成できた。

プラン4【学校行事の充実と円滑な実施】 ◆特別活動

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目標	10月状況	3月結果
1 児童・生徒が主体的・意欲的に活動できる学校行事を推進する。	教務部→各学校行事担当→全教職員	各行事で主体的、意欲的に活動できる内容を計画する。	運動会等学部行事遠足や校外学習など学年行事では、事前学習を計画的に進めることで児童・生徒が見通しをもって取り組めるように準備している。	○学校行事、学部・学年行事など、事前に準備を細やかに進めることで児童・生徒が見通しをもった安全な行事を実施することができた。
2 運動会や学習発表会等、生徒や職員の安全を	行事・生徒会部→全教	生徒、保護者等の満足度 80%	運動会、学習発表会については無理ない計画をた	◎運動会及び学習発表会については、特別時程を

確保し、生徒の主体的に活動するなど組織的に運営し、推進する。	職員		て、安全を確認しながら進めている。	編成し、計画的に練習を積み重ねた。小学部運動会はいにく体育室での実施となったものの、全体として滞りなく進行することができた。実施後に保護者を対象として行ったアンケートでは、94.8%から満足の回答が得られた。
3 校外学習、宿泊行事等では、安全で充実するように配慮した計画するとともに、安全な集団活動の取組みを実施し、児童・生徒の主体的な活動を推進する。	教務部→学年→学級担任	引率教員、生徒の満足度 80%。	各学年で遠足、校外学習、宿泊学習に向けてしっかり準備し、安全な活動を展開できている。	◎遠足、校外学習、宿泊行事に向け、学年内で十分な打ち合わせを行い、綿密な準備を整えた上で当日に臨むことができ、いずれの行事も事故なく実施できた。

【まとめ】

- ・各学校行事では事前の丁寧な準備により、児童・生徒が見通しをもって安全に参加できる行事運営を実現できた。
- ・運動会・学習発表会では計画的な練習が功を奏し、保護者満足度 94.8%という高い評価を得る成果につながった。
- ・遠足・校外学習・宿泊行事も綿密な打合せと準備により、全ての行事を事故なくスムーズに実施することができた。

プラン5【健康の保持・増進に向けた指導の充実】◆保健関係◆学習指導（日常生活の指導、体育、保健体育等）◆給食

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症対策を徹底する。	養護教諭→学年	1年間通して、基本的な感染症対策を徹底する。	嘔吐処理対応物品の設置場所を7か所増やした。	◎嘔吐処理対応を全教職員が速やかに行えるよう、環境整備や研修を行った。欠席者数に応じて必要な感染症対策を速やかに検討・実施した。
2 健康の保持・増進に向けた指導及び研修を充実する。	養護教諭、保健・給食部、学校保健委員会→全教員	学校保健員会及び同委員会講演会を年間1回以上実施	委員会を1回、講演会を1回実施した。	◎学校保健委員会を2回、講演会を2回実施した。
3 児童・生徒の「歯科指導」「摂食指導」「肥満指導」「性教育（性に関する指導）」を推進する。	養護教諭、保健給食部、進路指導部、保健	「歯科指導」を10月実施。「摂食指導」年間10回実施する。	歯科指導を9月に実施した。摂食指導を予定通り4回実施した。肥満指導は6月に開始した。	◎歯科保健指導、摂食指導、肥満指導を当初の予定通り実施した。また、性教育に関する講演会を

	体育科→学部			1月に実施した。次年度は対象の精査をしてより効果的に進めていく。
4 安全・安心な給食や食に関する指導等を進めるとともに、食育の推進を図る。	栄養士・保健給食部・食育リーダー	計画的に給食・食育を進め、全学年で食育の授業実施。	9月に栄養士による食育授業を実施した。	◎全学年で食育授業を実施した。
5 食物アレルギーの対応に関する研修を実施するとともに対応方法を理解する。	養護教諭、保健・給食部→学部	4月当初に食物アレルギーの研修の実施。食物アレルギーの事故「0」。	4月に研修を実施した。現時点でアレルギー事故0件。	◎4月に研修を実施した。年間をとおしてアレルギー事故は0件である。
6 該当児童・生徒の医療的ケアを理解し、保護者と連携し、適切かつ安全な医療的ケアを実施する。	担当主幹、養護教諭、担任	アクシデント、インシデント「0」。	1学期にインシデント2件。	○2学期以降はアクシデント、インシデント「0」。引き続き、関係者と連携し、適切に対応していく。

【まとめ】

- ・嘔吐処理研修や感染症対策を全教職員で徹底したことで、適切で迅速な安全対応体制が強化され、アレルギー事故0件を達成した。
- ・学校保健委員会・講演会・歯科保健指導・性教育・食育など年間計画の保健指導を確実に実施し、児童・生徒の健康教育が充実できた。
- ・2学期以降はアクシデント・インシデント0を継続し、関係者との連携による事故防止と安全な学校環境づくりを進めることができた。

プラン6 【地域等連携と地域貢献、センター的機能の充実】 ◆学習指導、学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 保護者や児童・生徒の希望に沿う副籍交流を実施する。	コーディネーター→各担任	副籍交流(直接及び間接)実施率80%。	在校生は1学期から、新転入生は2学期より交流を開始。	○副籍交流実施率は77%である。
2 小金井二小、本町小、小金井一中との交流会をとおした交流及び共同学習の実施	コーディネーター→小低、小高、中学部	小低年2回、小高年1回、中学部年2回実施。	小3が6月に実施。(2回目1月予定)小4は12月と1月予定。中1は2月予定。	◎小3(小金井第二小学校)、小4(本町小学校)、中1(小金井第一中学校)全てにおいて、年間2回ずつの交流を実施した。
3 中学部が高齢者施設と積極的に交流し、思いやりの気持ちやおもてなしの気持ちを育てる。	中学部担当主幹→中学部学年	高齢者施設での交流を9月に実施する。	中3が9月に実施。交流班と清掃班に分かれて実施した。活動を通して思いやりの気持ちやおもてなしの気持ちを育てるこ	◎中学部3年生が高齢者施設との交流に主体的に取り組み、挨拶や接し方、準備などに積極的に取り組む姿が見られた。自分か

			とができた。	ら声をかけ相手を気遣うなど、思いやりやおもてなしの気持ちをもって温かく関わることができた。
--	--	--	--------	---

【まとめ】

- ・副籍交流実施率 77%を達成し、小3・小4・中1では年間2回の交流を計画どおり実施するなど、地域との連携が進んでいる。
- ・各学年の交流活動をとおして、児童・生徒が社会との関わりを広げ、主体的に参加する姿が増えた。特に中3では高齢者施設との交流において、思いやりをもって声をかけるなど、社会性・対人スキルの成長が見られた。

プラン7【ライフ・ワーク・バランスの推進・働き方改革】 ◆学校経営・学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→ 対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 時間外労働時間1か月45時間以内を目指す。 (1日の時間外業務を約2時間以内)	全教職員	教職員の80%以上が時間外労働時間1か月45時間以内とする。	教職員の86%が4～9月の時間外労働時間が45時間以内で達成できている。	◎全教職員の約90%が達成できた。
2 毎月1回程度の定時退勤を徹底する。	全教職員	全教職員の80%が定時に近い時間に退庁する。	計画的に業務を進めるため、月予定に定時退勤日を記載し、定時に近い時間で退庁できている。	◎月1回の定時退勤日以外でも、定時に近い時間で退勤できていた。
3 各学部、各学年、校務分掌等の各組織的な業務を整理(業務改善・業務縮減)し、個々の教職員の役割の明確化や業務のシェア化を推進する。	各学部主任、各分掌、4級職、各主任、経営企画室→全職員	4月中に各学部、校務分掌等で方針を明確化する。	各分掌で4月に業務分担表を作成し、役割を示し、それに基づいて仕事を行っている。	◎4月に各学部、校務分掌で組織目標を作成して1年間その目標ののっとなって活動し、2月に評価を行い、反省し次年度に生かせるように取り組むことができた。

【まとめ】

- ・全教職員の約90%が目標を達成し、働き方改善に向けた取組が定着してきている。
- ・月1回の定時退勤日以外でも多くの教職員が定時近くで退勤でき、勤務時間の適正化が進んだ。
- ・学部・校務分掌ごとに設定した組織目標に基づき1年間取り組み、2月には評価と改善を行うなど、組織的PDC Aが効果的に機能した。

プラン8【組織力の向上】 ◆学校経営・学校運営

② 重点目標と方策

方 策	担当者→ 対象教員等	目 標	10月状況	3月結果
1 勤務時間及び勤務時	全教職員	サービス事故未然防	4月・7月にサービス事故未	◎年間をとおしてサービス事

間以外においても、コンプライアンスを遵守し、行動する。		止研修等や事故防止の取組み(通勤方法等の確認を年2回)を実施し、服務事故「0」を目指す。	然防止研修を実施。定期券等の確認は5月・9月～10月に、自転車加入保険の確認は5月に実施した。	故未然防止に取り組み、コンプライアンスを遵守することができた。
2 学校ホームページやマチコミメール等の計画的な更新や情報伝達メールを活用し、教育活動、防災等の情報を発信する。	情報教育部 →担当主幹	ホームページやマチコミメール、年間合計160回以上更新。	10月1日現在で、ホームページの更新64回、マチコミの配信120回。	◎学校ホームページは、年間120回以上更新を行った。1、2学期に紙配布していたおたよりなどは、3学期よりマチコミメール配信とし、感染症情報等と合わせて年間300回以上の配信を行った。
3 積極的な情報発信(学校での成果が上がった取組み、充実した教育活動等)	4級職→各学部、各学年	西部支所のGOOD NEWS年間5回以上。	読書活動、図書室の改装について計2回記事を作成した。	◎読書活動・図書室改修、ヨガ教室、創立50周年記念コンサート、芸術家との身体表現活動など、学校での取組みについて情報発信できた。
4 プール水等上水道の管理を徹底する。	経営企画室 長→用務専門員	毎日1回(朝)メーターの確実な確認	毎朝、用務専門員がメーターのチェックを行い、校長と室長が確認している。	◎毎日1回の検針を実施し、使用量を適切に把握・管理することができた。
5 個人情報紛失事故を未然防止のため、職員室、保健室、経営企画室等の机を整理するなど日々クリーンデスクを実行する。また個人情報の誤配布防止を徹底する。	全教職員	クリーンデスクの徹底と個人情報の紛失及び、誤配布「0」	各学期に誤配布があったため、氏名の再確認等を徹底した。個人情報の取扱いについては、繰り返し注意していく。	△個人情報の書類は手渡しや施錠書庫で適切に管理されているが、毎学期、誤配布や確認不足による事案が発生している。事故をしっかりと自分事とし捉え、一人一人が未然防止の意識を高め、引き続き管理徹底を図る。
6 主幹教諭連絡会での学校課題等の整理と改善策の検討を行う。	副校長、4級職	毎週開催。毎週の企画調整会議の円滑な運営のための準備	計画的に主幹連絡会を行い、担当で抱えている課題について話し合い改善を進めている。	◎1年間主幹教諭連絡会をほぼ毎週開催し、4級職で課題整理検討をし、企画調整会議を円滑に運営する準備を行うことができた。
7 教職員の性暴力、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメントを根絶する。	全教職員	年間3回以上の研修の実施 教職員の意識改革の推進	4月・7月に未然防止の研修を実施。問い合わせ等のポスターを職員室等に掲示した。	◎12月に研修を実施し、年3回の研修をとおして、教職員の一人一人の意識がこれまで以上に高まった。

【まとめ】

- ・年間を通して服務事故未然防止に取り組み、全教職員がコンプライアンスを遵守し安全な学校運営を維持した。しかし、個人情報書類の誤配布等が毎学期発生しており、一人一人が未然防止意識を高め、管理徹底を図ることが引き続きの課題である。
- ・学校ホームページの120回以上の更新とマチコミメール300回以上の配信により、迅速で確実な情報発信体制を強化した。
- ・読書活動、図書室改修、ヨガ教室、創立50周年記念コンサートなど、多様な教育活動の充実と発信が進んだ。
- ・教職員の性暴力等や各ハラスメントの研修をとおり、教職員の意識向上が更に進展した。

【総合的なまとめ】

本年度は、人権研修や外部講師研修を計画どおり実施し、服務事故ゼロ・アレルギー事故ゼロを達成するなど、安全・安心な学校づくりが大きく進展した。教育活動では、研究授業127回や☆本を活用した授業改善、図書室整備や読書活動の推進、インターンシップの計画的実施により、児童・生徒の学びの質と主体性が着実に向上した。また、防災・危機管理面では、助言と訓練に基づくマニュアル改善、BCP更新、市・消防との連携強化により、危機管理体制の基盤が整った。さらに、行事運営の質も高まり、保護者満足度94.8%という高い評価を得ることができた。

一方で、個人情報書類の誤配布など毎学期の課題が残っており、未然防止に向けた教職員一人一人の意識向上が求められる。働き方改革では、教職員の約90%が目標を達成し、勤務時間の適正化や組織的PDCAの定着が進むなど、学校経営全体が効率化・高度化へ向けて前進した。